

第 52 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2018. 11. 15

『ゲーフィス錠 5mg』

持田製薬 馬淵 裕子さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：味田村俊次、田村さやか、木村亜希子、薦田麻莉子、松下さゆり、波間薫、
小瀬村恵理、青木風香、熊山ともみ

近年、慢性便秘症の新薬が多く発売され、選択肢が広がった。
その中でも世界初の胆汁酸トランスポーター阻害剤であるゲーフィス錠について学んだ。

【効能・効果】

慢性便秘症（器質的疾患による便秘を除く）

【用法・用量】

通常、成人にはエロビキシバットとして 10mg を 1 日 1 回食前に経口投与する。なお、症状により適宜増減するが、最高用量は 1 日 15mg とする。

【禁忌】

1. 成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 瘍、ヘルニア等による腸閉塞が確認されている又は疑われる患者 [腸閉塞を悪化させるおそれがある。]

【副作用】

承認時までの国内の臨床試験では 631 例中 292 例 (46.3%) に副作用が認められている。腹痛 120 例 (19.0%)、下痢例 (15.7%) が主な副作用だった。

【特徴】

- ・世界初の胆汁酸トランスポーター阻害薬。IBAT 阻害作用により、大腸に流入した胆汁酸が水分分泌と大腸運動促進を発揮する。
- ・他の慢性便秘治療薬に比べて効果発現時間が平均 5.2 時間と早い。
- ・腸刺激薬と異なり、耐性が起こりにくく長期に使用しやすい。
- ・食事の影響を受けるため、食事の量や種類で用量調節が必要。

【考察】

近年慢性便秘症に対して多くの薬剤が発売され選択肢が広がった。

ゲーフィス錠について、気をつけたいことは、食事の影響をうけるといったことだ。胆汁酸が多く大腸に流入することで排便を促すが、胆汁酸を多く分泌する高脂肪食を摂取するとお薬の効果も上がってしまい、下痢の副作用の可能性が上がる。逆に食事の量が少ない高齢者の患者さんに対しては効果が薄くなってしまい改善がみられない。初回投与時には食事の回数や量・種類についても聞き取りが必要であると感じた。

ゲーフィス錠に対しては食前服用で効果が得られるが、はじめに発売されたアミティーザは食前服用すると吐き気の副作用が起こりやすくなったりする。また効果発現時間に対しても、患者さんの生活に取り入れる際には重要なことと考えられるため、しっかりとした知識で患者様に対応していきたい。

【Q&A】

問) どの食事の前がいいか。

答) いずれの食事の前でもいいが、朝夕食前の処方が多い。効果発現時間が約 5.2 時間のため、夕食前だと就寝中に排便の可能性が出てくるので注意が必要。

問) 胆汁酸製剤との相互作用について

答) 作用を減弱させる可能性はあるが、食前服用のゲーフィスに対して食後に服用するようなら、相互作用は少ないため、併用は可能である。